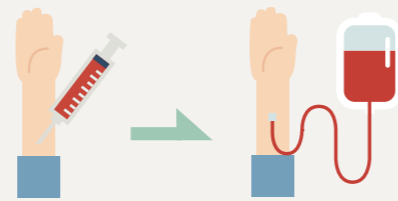




### 歯科衛生士による口腔チェック

手術前に歯科健診を行います。手術中や手術後の感染症リスクを減らすために、むし歯や歯周病がある場合は、治療を終えてから手術を行います。また手術後も歯科の定期受診を推奨しています。



### 自己血貯血について

人工股関節の手術には、数百CCの出血が想定されます。手術中または手術後に輸血が必要になる可能性に備えて、前もってご自身の血液を採血・保存します。当院の場合は、手術5週間以内の外来通院時に約2回の採血を行います。



専門性の高いスタッフが連携して取り組む股関節治療

外来診療から退院まで、さまざまな職種が治療を支援・援助いたします！

# 人工股関節置換術

術後翌日からリハビリテーションを開始することで、循環障害、廃用症候群を予防し、早期退院できるようにサポートします。



リハビリテーションをするひと  
理学療法士

入院時に持参したお薬を確認し、術後薬の説明や服薬指導、入院中のお薬管理・処方提案などをさせていただきます。



お薬を管理するひと  
薬剤師

外来から手術・退院後の定期検診まで長期間、患者さんの看護にあたります。入院中は手術後の脱臼肢位に注意しながら他部門と連携し、患者さんの不安を緩和できるように努めます。



外来・手術・病棟で看護をするひと  
看護師



入院前に口腔チェックを行い、口腔内の環境の悪い方には歯科受診を勧めるなど、患者さんの口腔保全に努めます。

口腔ケアをするひと  
歯科衛生士



心臓エコー検査と下肢静脈エコー検査を担当します。また術前の血液検査などにも携わります。

エコー検査をするひと  
臨床検査技師



入院に対する不安や悩みをお聞きしながら介護保険など患者さんに応じた社会資源を提供しスムーズに退院できるように支援いたします。

医療・福祉・介護を支援するひと  
地域連携室 社会福祉士



手術前と手術後にCT検査を行い、人工股関節が適正な位置にあるのか画像上で確認します。

CT検査をするひと  
放射線技師

変形性股関節症・関節リウマチ・大腿骨頭壊死症などで病期が進行し、痛みが強くなっている人や日常生活の動作に支障がある場合には「人工股関節置換術」を行います。今回は手術から退院までの治療のながれを説明します。

## 治療のながれ

### 1 外来診察と術前検査



外来通院をしながら手術の計画を立てます。服用中のお薬の確認やほかの病気がないか事前に検査を行います。また、自己血貯血として外来にて採血も行います。

### 2 入院や手術の説明など



事前検査と併せて入院前にご不明な点や適用となる保険サービスなどの案内を行います。患者さんやご家族のみならず適切な制度を繋ぐ支援を行います。

### 3 入院から手術日まで



手術予定日の前日に入院していただき、理学療法士による脚の長さや関節の動き、筋力などの身体状態を確認します。

### 4 手術から退院に向けて



手術の翌日から病室にてリハビリテーションを開始します。車椅子でのリハビリテーションや関節を動かしたり、歩行器・杖・階段昇降、屋外歩行など歩く練習を行います。

### 5 退院から通院へ



約3週間後に退院し、術後1年間は約3回、その後も年に1~2回ほど定期検診を行います。ゴルフやテニスなどのスポーツを楽しむことは十分可能です。また、希望すれば通院での外来リハビリを行います。